

# WHAT

## ドイツ・ケルン大学

文教育学部 芸術・表現行動学科 4年  
千種杏奈

まずドイツに行くまでは手続き関係で苦労しました。私は初のケルン大学留学生であったので情報が不足していることもあったり、ケルン大学の担当の先生が休暇に入ってしまったりして、メールの返事を長い間待ったりしました。なんとか出国までに入学許可書をもらい、日本を立つことができました。

しかし寮にいつ入れるのか、契約書をどこで手に入れることができるのか、わからないままドイツに入国することになりました。最初にまず私は international office (A A A Auslandersamt)の担当の先生に直接話を伺いにいくことにしました。

先生はとても優しく、寮の事から、付属語学学校の案内、留学生のための説明会、学生登録などを次々に進めてくれて、かなり安心した覚えがあります。

その先生が困ったことがあった際にかなり親身になって助けてくれたこともあり、今後留学生がいれば、まず彼女に会いに行くことを勧めます。

最初の一か月は本当に語学学校と手続きに追われた日々でした。9月中旬からは履修登録が始まり、何段階かにわかれて授業を登録していく期間となりました。

私は中世音楽史を研究していて、ドイツでもそれができればいいなあと考えてきたので、この留学で一番刺激を受けた授業は Hören Mittelalterliche Musik でした。

その授業は文献を読み、その文献について話したり、楽譜をもとにその曲について分析を交えた発表を生徒がしたりととてもレベルの高いゼミ形式の授業でした。

どの授業も目新しいことが多く、充実した勉強をすることができました。

私はドイツに行って初めはわくわくしていたし、何もかもが新鮮で、すごく楽しく、また友達もたくさんできて、上手くやれて、思っていた以上に充実した日々を過ごしていました。しかし半分くらいたった後はいつまでも上手くならないドイツ語に悩んだり、授業で苦労することが多く、だんだん辛いこともありました。さらに私は同じ年に入った友達が卒業してしまう一方、私はある意味時間が止まっている状況なので、焦ったり、帰ってからの進路などでドイツに来て良かったのかと正直後悔していました。

今ドイツから帰ってきて日本でたまっていたことが一気に押し寄せてきて日本に帰ったことも実感できずに現実に戻されていますが、これがやはり日本ということなんだなあと思いました。そう考えると、ドイツで過ごした時はとてもゆとりを持って自分の勉強をすることができ、ほかにも様々な人生の糧になるような体験をすることができました。一番自分の中で変わったと思うことは日本を外側から見ることができたということです。

そう考えていくとやはりこの一年ドイツで過ごせたことは私の人生の中では大きく、やはり、行ってよかったと思えるようになるのではないかと考えています。

今後はこのような経験を生かして、日本やドイツのためになる活動を音楽の観点から行えるように勉強に励みます。そしてドイツはとてもいい国なので、もしまた機会があったら訪れたいです。